

三刀屋町会場（三刀屋交流センター）

Q38：先日、新聞かテレビで見たが、30年先か40年先の、日本の市や町の人口減少のワースト10が出ていた。雲南市の場合は、人口は何人ぐらいになるのか？市長の話を聞いていると人生バラ色のように発展するような話だった。人口の自然減でもすごいことになっているが、出て行く人がいるといよいよ人口が減るんじゃないかと思う。何十年先か忘れたが、北海道では、何万人いるところが、何千人になることが、表で新聞かテレビに出ていた。雲南市は、どのぐらいの人口になると考えているのか。

A：先ほど、説明を落しました。資料の11ページをご覧ください。10年先の平成36年には、何もしなかったら、今のままであれば35,000人ちょっとになる。今を40,000人とすると、10年間で5千人減ることになる。今までの10年間で5千人減っているので同じペースで減っていくと5千人減ることになる。そうしてはならない、そうさせてはならないと考えている。先ほど説明したが、人口の社会増対策を戦略として考えて、いろいろな施策を実施することによって最初の5年間で人口の減少に歯止めを掛け、あとの5年で増やして行こうということで、36,500人にしていきたいと考えている。

先般報道されたのは、元総務大臣の増田寛也という方が、日本創生会議で色々研究されて、市町村が全国で1,600弱あるが、その半分が消滅するという話だった。島根県では、松江市、出雲市、飯南町以外は消滅するというので、雲南市は消滅するとのことだったが、消滅してたまるかという思いをもっている。こないだ、放送大学の人口問題を考えるシンポジウムで、この近くからは、県中山間地研究センターの藤山さんが出ておられた。今回の報告では、3年半前の東日本大震災以降の都市から地方への人口移動が全然考慮されていないこととか、色々な問題点を指摘されていた。あれがそのままにはならないという話だった。地方創生本部を安倍首相が唱えられ、9月には地方創生担当相を任命されるといった国策と中山間地研究センターや島根県が窓口になって、限界集落という言い方を飛び越えて消滅集落というそうだが、そうならないように、現場から具体的な現状と理由を説明して、施策を国が実現してくれる、そういうふうな要請活動を行っていききたいと考えている。市民の皆さんと市がタイアップして進めていきたい。(市長)

Q39：10年の歩みを聞かせていただいたが、自主組織とか、まちづくりとか、自治会長会など、きちんとした目線がでないまま合併したようになっている。いよいよまちづくり協議会という名前スタートしたようになっているが、このまちづくり協議会ということと、三刀屋の場合は、こないだ資料を見たら自治会長会は、まちづくり協議会ができたから要らないということになっていた。自治会があるから自治会長会もあったわけだが、これからは自治会長会がなくなって、まちづくりはどのような体制づくりをされるのかということと、あわせてまちづくり協議会は雲南市で一本になって会長はどなたが務めておられるのか？

A：三刀屋町自治会連合会が、2年前まであったが、昨年度末で解散させていただいた。というのが、自主組織ができるまでは、相談窓口としては三刀屋町全体の自治会連合会へ情報を出ささせていただきながら、協議の窓口としてお願いしていた。自主組織が立ち上がって、相談窓口を自主組織の方へシフトしていきながら、それぞれまちづくりをしていただくことに切り替わったことで、本来の自治会連合会の仕事が薄れたことにより自治会連合会は解散とさせていただいた。自主組織に関しては、自治会が活動の拠点となるので、自治会には自治会長さんは当然いらっしゃいますし、自主組織の中へ自治会長さんもお入りになって活動をしていただいていると思っている。(三刀屋総合センター所長)

Q40：自主組織ということ自体が、まだ十分に理解したということにない。自主組織ということは、自主的に仕事をすることではないか。自主組織がまちづくり協議会と言われると、どっちがどっちと考えておられるのかと思ってしまう。三刀屋町でも鍋山もあり、中野も飯石も給下もある、その中で代表者が出てやっていた。今度は町というものがなくなってくると、どのようなことになるのか、例えば、鍋山の方と一緒にや

っていくようになるのか？あるいは、給下の方と一緒にやっていくようになるのか？どのようにまとめられるようになるのか？

A：三刀屋町に5地区の自主組織があり、それを束ねる三刀屋町地域自主組織連絡協議会というものがある。そこで三刀屋町全体の取り組みは、その協議会の方で決定をしながら三刀屋町全体の活動として取り組む体制ができています。これで、連合自治会の役割はまかなえている。(三刀屋総合センター所長)

Q41：その代表者はどなたですか？

A：自主組織のそれぞれの会長さんの互選をいただき、飯石の自主組織「雲見の里いいし」の会長さんに連絡協議会の会長を務めていただいている。(三刀屋総合センター所長)

Q42：先日、三刀屋交流センターの方で、防災の勉強会に参加した。雲南市からも2名お見えになり、聞いてくれとのことだったので参加したが、去年は江津市とか益田市の方が大水害に遭われたということで、三刀屋町の方からも見舞いなど何か支援をする考えはないか、交流を広げてはどうかとお尋ねしたが、市長から、雲南市は災害に強いまちを目指しているとのことのお答えがあった。その後、災害に強いまちということで、三刀屋のまちづくり協議会に対してどのような指導をされているのか？

A：昨年、ご質問いただいたときにお答えしたのは、災害に対する支援を三刀屋町からということではなくて、派遣するとすれば三刀屋ではなく雲南市から派遣しないとけないということで、雲南市は特に江津市でたいへんな災害が発生しましたので、災害査定資料作成のための職員が足りないということがあったため、市から職員を派遣している。そういう意味で、三刀屋町からではなく、雲南市として派遣しますのでご理解いただきたいとの意味でした。(市長)

Q43：総合センター長にお聞きしたいが、三刀屋町では、災害に強いまちづくりについては、どういう指導をされているのか。

A：ふるさと講座でのご意見をいただきました件について、センターからの回答が大変遅くなっていたことに対しまして、まず、お詫び申し上げます。いただきましたご意見については、島根県の方へ伝え、回答をいただいたところである。県の回答とあわせて、三谷川の対応について、総合センター次長からご説明する。(三刀屋総合センター所長)

A：島根県の考えをお伝えしたい。近年あるのは想定外の水害で、それに伴って河川の堤防が削り取られることがあると思う。それはどこが壊れるかというのわからないので、そこを手当するということは難しい。前もって立木や竹を切ってはどうかと意見をいただいたが、島根県としては、本流だけの竹を伐採するというだけでは、支流からの流木も発生するというので、そこだけを重点的に伐採することはなかなかできないという回答だった。あと、パトロールを行い流れを阻害しているものについては、伐採をしていく。出水後、中州に残った流木は早急に撤去し、対応したいと言っておられる。ちなみに、三刀屋川の立木の伐採も5箇所程度行われている。坂山橋付近から斐伊川上流部、町部に向かって土砂撤去3箇所をしていただいている。市としても引き続き要望していきたい。また、自主組織の声掛けで、自治会ごとに防災マップづくりをしておられるので、安全対策、事前の対策をしていただいていると思っている。(三刀屋総合センター次長)

Q44：先ほど説明がありましたが、そんな簡単な話ではない。災害というのは、なぜ私が連合会がなければ災害が防げないということを行っているのかということ、河川の話だったが、三刀屋川は吉田・頓原境からこちらに向かって流れているが、降った雨が水の流れも速いため集中的な災害を起こす。結局三刀屋だけで川を守

ることが到底できない。鍋山や掛合の方も流れているので、川の事について簡単に県の方へ言っておけばいいという考えをしているが、実際に経験したことを言うと、旭町と基町周辺でポンプ車を入れてもらわないといけない水害があった時に、三刀屋中学校の裏の方では現在の水位から7mぐらい上昇したことがあった。7mとなると大体二階から上の高さになる。そうなると、竹とか切った竹を放置したりすると、大災害を引き起こす原因となるので、一人が1本ずつ切ってもとにかく片付けてもらわなくてはならないということを、市長に即刻お話しさせていただきたいということで、防災の研修会で言ったところだ。幸いにも先日の台風は逸れたが、万が一、大きな台風でも来たら大きな災害になっていたかもしれない。その後、一向に回答がなかったので立腹したが、災害というのは、サイレンが吹鳴すればすぐ対応しなければならない。中学校やセンターとかに毛布とかを持って行くのは災害ではない、そんなものはいらぬ。どうやって災害を防ぐのかは、手っ取り早い方法を考えられるのは市長さんか担当かわからないが、それにあわせて、毎年壊れる護岸や川幅の狭いところに7mも水位が上昇すると、潜水橋の付近は川幅も狭いし、それから尾原ダムもできたし、それから出雲市の斐伊川放水路も完全にできたということで、これからは三刀屋を災害に強いまちにするためには、警戒水位から上がる計算にすると、10mから15mの幅が無ければ到底できないから、それに合わせて潜水橋も永久橋にしてもらうとか、市長に話させていただきたいということでお願いをさせていただいた。それからいくらたっても連絡はない状態だった。一つの大災害で命が奪われてしまう、そうならないようにしなければならない。人口減少ということばかりでなくて、人口がある内になんとか対策を考える必要がある。今日の先に見えているが、川の木がみんなひっくり返ったら、みんな蓋をしてしまうことになりかねない状況があらこちらに見られる。今日は市長がおいでだが、是非県への働きかけをお願いします。

先日、全国の早く取り組む県ということで、鳥取県が2位、島根県は30番目ぐらいだった。また、雲南市も下から2、3番目ぐらいじゃないかと思った。案として、全国一の取り組み県と言われるように働きかけていただきたい。

A：三刀屋川の護岸の竹の問題については、早急に対応しなければという認識をしている。今日改めて、ご意見いただきましたことを、しっかりと受け止めて、努力していきたい。かねがね、斐伊川水系の中で尾原ダムも出来た、斐伊川放水路も完成した。後残るは大橋川改修事業だが、まだまだ、斐伊川堤防や三谷川や新田川の内水対策の解決に向けて力を入れていかなければいけない。定期的に出雲河川事務所、或いは、広島にある国土交通省中国整備局に、河川整備、国道の問題、高速道路の問題について、要望をしに行っている。本日、ちょうど広島にある中国整備局へ、斐伊川の堤防、斐伊川の支川（三刀屋川）対策について、固定の排水ポンプを設置しなければならないと、具体的な事項を挙げながら要望して帰ってきた。国は聞く耳を持っている。いかに積極的に現地の声が届けるのが大切なことだと思っているので、言われましたことを発奮材料にして、箇所名など具体的な名も上げながら要望していきたい。

それと、スピードこれも行政に求められていることなので、職員には5つの実践（迅速・決断・実行・報告、迅速・正確・親切・丁寧）を守るように言っているが、早め早めに取り組むように考えている。（市長）

Q45：子どもについて、子育てする年齢的に言うと、色んな勉強させたりすると、かなりのお金を使っておられる。掛合太鼓が全国大会にここのところずっと島根県代表で出ている。お褒めの言葉がいたって無い、全国大会に行くのに、新聞社の取材もない。なぜ島根代表で全国大会に行くのと思う。全国大会となるとバス代も相当掛かる。せめて、お褒めの言葉があってもいいのではないかと。太鼓ばかりではないが、褒めてやることがないと雲南市の成長度も乏しいのではないかと。

A：子ども達の成績をしっかり評価してあげることが重要である。これまでもスポーツ、文化で全国大会に出場となった場合、市長へ報告、市長から激励し、写真撮影を行っている。掛合太鼓さんについては、毎年、全国大会に出場しておられるということで、市としても熱心に支援している。ただ、大会前に激励をしているわけではないので、全国大会に対してきちっと激励をしていきたい。（教育長）

Q46：要望をひとつ申し上げたい。仕事柄、小児科をしているので、若いお母さん達が子どもさんをたくさん連れて来られる。実際、共働きの親さんが多くて、保育所に預けている子どもさんたちは、しょっちゅう病

気にかかる。そうすると、その都度、仕事を休まないといけなくなる。それで、無理してまだ治りきっていないのに保育所に出す。そうすると、またそこで、二次感染を起こす。なかなか終息しない。そういう状態がずっと続く。そこで、何箇所かは小規模で病後児保育施設を設置されておられるが、今の設置数では全然足りない。もう少し定員を拡大していただきたい。そうすると、若いお母さん達は、気兼ねなく仕事ができると思う。

A：病後児保育事業について、現在の状況は、雲南市内では大東町に1箇所、掛合町に1箇所で行っている。どちらも定員は数名といった状況である。おっしゃるとおり充足には、ほど遠い状況である。ただ、木次・三刀屋辺りの所で最低でも1箇所の設置を考えているし、子ども・子育ての支援制度の関係でアンケートも取ったが、その中でそういった要望もいただいている。ぜひ、病後児保育について、なるべく早く木次・三刀屋辺りで1箇所は設置したいと考えている。ただ、設置したからといって規模的に充足できるかというところが非常に難しいと思っている。(健康福祉部長)

Q47：私が言いたいのは、今2箇所ある程度のものを1箇所増やしたからといって、なんら解決にならない。ある程度の、例えば幼稚園みたいな感じの病後児保育園みたいなものを公的に、例えば雲南市立病院のすぐ近くに設置するとか、そうすると、緊急事態があった時でもすぐに対応できる。こういうことを要望している。実際に、お母さんたちが届出を持って来られるが、抽選で当たったのかどうか分からないが、何十人の内一人が持って来られる。それではとても足りないと思う。周りの子どものことを考えて、休ませないとダメだよと説得はするが、保育園はインフルエンザが流行しても、学校や幼稚園と違って閉鎖することができない。文部科学省関係でないで。そういったことを念頭において要望している。

A：ご指摘のとおりでございますので、努力していきたいと思っております。(健康福祉部長)

Q48：議員さんへどうしてもお願いしたい。議員改革として、このことは、もう少し小さい規模の市政懇談会の場で、市長さんから会派ができないと難しいというお話だったが、議会を見ていると毎日同じ質問をされるのが非常に多い。見ていてうんざりしてしまう。例えば、何番議員と何番議員を代表して質問しますとか、質問する内容は前もって出ていると思うので、議員さんごとに会派関係なく調整できないか。例えば、建設部長が、先日もお答えしましたが、という答弁があったりすると、本当に見ていて嫌になってしまう議会の状態なので、その辺の改革をお願いしたい。

それと、最後のところでいつも終わるパターンが、「検討をお願いします」で、議員さんの質問が終わって、次何番議員さんの形ですが、検討をお願いしたならしたで、次の議会の冒頭で市長さんのあいさつの中で、検討課題について執行部の方から例えば進捗状況についてわかりやすく報告してほしい。

執行部にお願いが、色んなことを行うと、どうしてもマンネリ化してしまう。例えば、軽トラ市について、最初のころは非常に出店業者も多く、人も多かったが、先日の加茂の時には、出店業者もないし、人も少ないということで、何にしても回数を重ねるとマンネリ化してしまうことがあるので、途中で改善や改革をして前に進んでほしい。

A：前段の議員さんへの要望につきましては、今日は市政懇談会ですので、出席の議員さんへの要望されたという形にさせていただきます。(三刀屋総合センター所長)

A：施策のマンネリ化について、特に、軽トラ市についてご意見をいただいた。これについては、雲南市商工会さんと雲南市が一緒になって商業振興のために始めたもの。出だしの頃は、たくさんの方に参加していただき、また、出店者さんもたくさん出てもらって、お客さんにも多数お出かけいただいた経過もあるが、長年続けていくようになると、どうしても新鮮味が欠けるということ、ご指摘のとおりでございます。事業を続けていく上で、新鮮味を保って、また、皆さん方のニーズに合った施策を日々検討しているので、いただいたご意見を商工会と一緒に考えていきたいと思う。(産業振興部長)

A：一般質問の検討状況について、一般質問がございましたら、その議会が終了した後、部長会で検討すると

した事項についてリスト化をしている。検討状況の進捗により、対応中とか、対応済みとか、あるいはものによっては実施不可といった管理をしながら取り組んでいる。検討の結果、対応するといったことになると、主なものは議会の委員会でご報告したり、質問をされた議員の方に直接お知らせもしている。市民の皆様に対しては、議会の冒頭の、市長の所信表明で、こういったことをします、ということを報告している。そうしたことで質問についての取扱いをしている。(総務部長)